

# 緊迫化する

## 古紙リサイクルの事情(報告)

百年に一度という経済危機が世界中を覆い、未だ改善の見通しが立たない状況は変わっておりません。古紙リサイクルなど再生資源リサイクルの現場でも決して例外ではありません。回収・問屋業界はともに急激な価格低下に見舞われ、特に回収事業者は、回収コスト割れによる「集団回収存続の危機」に陥り、異例の記者発表を3月末に実施。古紙問屋サイドも価格低迷に歯止めをかけようと製紙メーカーに要望書を提出した他、一部赤字輸出の在庫調整が必至の状況となっています。

古紙の余剰が慢性化すると、かつて平成7～9年に社会問題化した雑誌の引き受け拒否をする地域が出るなど古紙の大余剰問題が再燃し、再生原料のごみ化も大いに懸念されるどころです。

ここでは深刻化する最近の古紙リサイクル事情を報告します。

### ＜古紙の流通状況—古紙の適正在庫のため約400万ト/年輸出が必要 価格は昨年後半より急落。集団回収事業者は回収コストを割り込む＞

平成20年(1月～12月)の古紙回収量は、全国で約2,275万トにのぼり、国内の製紙メーカーの古紙消費量は約1,915万トとなっています。この需給ギャップを埋めるために、中国を中心に年間約350万ト/年の輸出をしてきました。

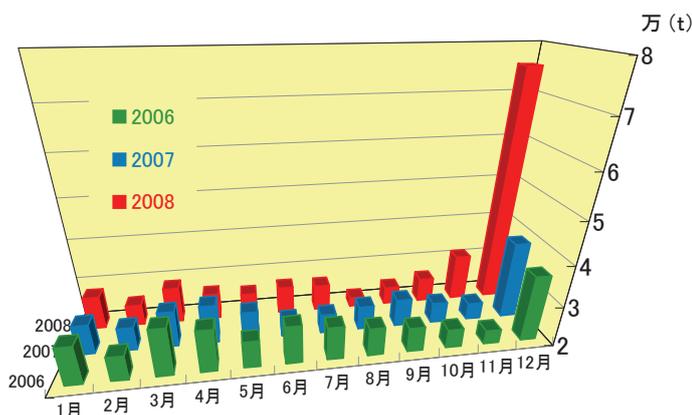
全国の古紙問屋の在庫能力は約70万トとされており、昨年12月の在庫量は約68万トにものぼりました。今年に入り在庫率は幾分緩和されたものの、現在都内のどの古紙問屋も入荷量が出荷量を上回る傾向にあり、プレス梱包された古紙で在庫があふれ

かえている状況です。

古紙の発生量が昨年並みとした場合でも、適正在庫を保つためには今年は最低でも合計約400万ト輸出する必要があります。

古紙の価格は日本経済新聞の市況欄(回収問屋買値)によれば、昨年10月頃より下落が始まり、3月末現在では、新聞6.5～7円/kg、雑誌3.5～4円/kg、段ボール6～6.5円/kgと昨年のピーク時の1/2～1/3まで大幅に下落、底をうつ気配もみられない状況です。

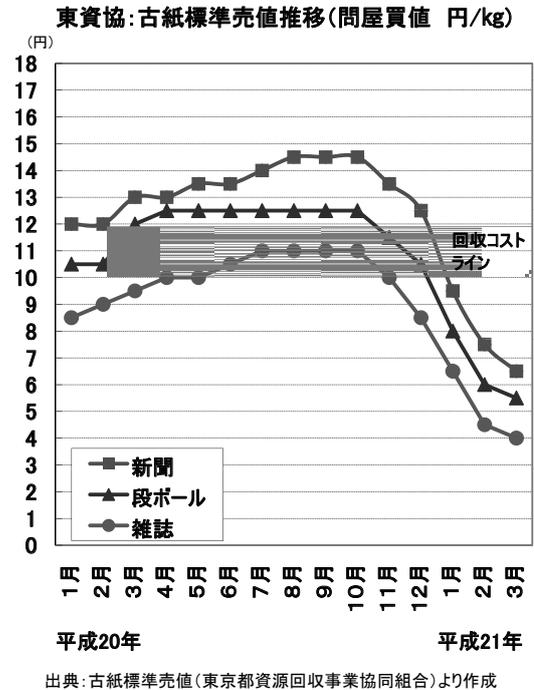
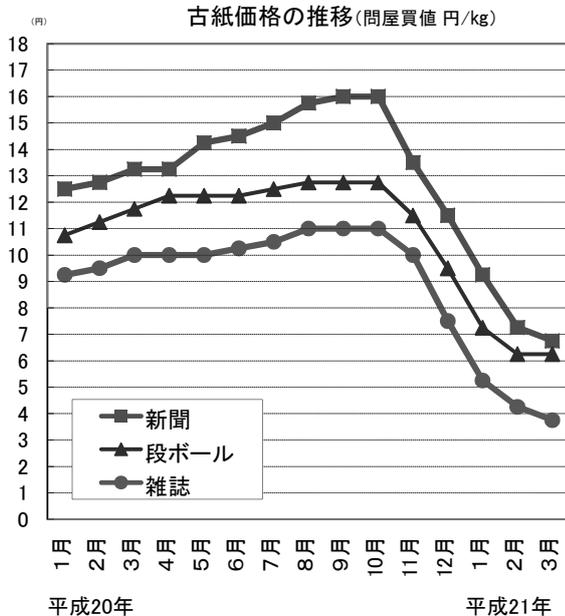
関東地区の古紙3品合計在庫量の推移



古紙問屋の在庫は昨年12月に急増した。  
出典: 関東32社古紙3品在庫量(関東製紙原料直納商工組合より)



建屋に納まらずトラック通路にはみだす古紙在庫(通常在庫の約3倍となっている) (株)下田商店(日野市)



## ＜国内外の需要動向＞

国内の古紙需要見通しは暗いものとなっています。日本製紙連合会が発表した平成21年の紙・板紙の需要見通しは、景気減速などにより、対前年比のマイナス8%となっており、今後国内の古紙需要は収縮の傾向にあります。また、一部メーカーでは4月から製品価格の値下げ発表をするなど、原料である古紙価格の回復材料は見当たりません。

一方、中国では経済危機の影響で、外需の落ち込みは激しいものの、政府が内需喚起策を打ち出しこれが奏功、経済減速は最小限に抑えられている模様です。ただし、日本の古紙余剰傾向などに乗じて輸出価格は大幅に下落(各品目とも推定マイナス5円/kg前後)。国内の問屋は在庫調整のため一部赤字輸出を余儀なくされています。中国は安値の間買いだめに走っており価格低位ながら需要は衰えの気配がありません。

## ＜4月以降の緊急的な課題＞

古紙価格の暴落は、とりわけ集団回収事業者の回収コスト(10～12円前後)をすでに割り込み、集団回収システム維持が困難な状況となっています。資源回収業界ではこれまでも価格回復と需要拡大の対策を検討してきましたが、東資協では価格暴落に対する経済的な支援を都民へアピールするための緊急記者会見を都庁記者クラブで行ないました。また日資連は行政機関に対して「適正な回収経費の助成策」「資源価格の下落くいとめへの協力」依頼を発表したところです。(要請文は後掲。ご参照ください)

古紙問屋にとっては在庫調整が最も厳しい段階となります。4月は1年を通じて古紙が最も発生する(通常110%)月でもあり、5月にはゴールデンウィークなどでメーカーは操業短縮に入るため、在庫調整が最も厳しい局面にさしかかります。古紙のごみ化回避のために赤字輸出の度合いは益々高まって参ります。

情報提供者: 栗原正雄(全国製紙原料商工組合連合会理事長・(社)東り協会常務理事)  
紺野武郎(日本再生資源事業協同組合連合会理事長・(社)東り協会副会長)  
吉川太郎(東京都資源回収事業協同組合理事長・(社)東り協会常務理事)

## ＜東資協の要請文＞

東京都民の皆さまへ！

### 資源循環型社会崩壊の危機

都民の皆様には日頃から再生資源のリサイクル事業にご理解とご協力を賜り心から感謝申し上げます。

さて、昨年後半から始まった世界同時不況の煽りを受け、集団回収の主要品目である古紙とアルミ缶の価格が暴落を続け、未だ底が見えない状況にあります。

私ども資源回収事業者は経営の効率化を図り、経費の低減に最大限の努力を重ねて参りました。しかしながら、両品目とも既に回収のための経費を賄えない低価格となっております。これは私共の主な事業の一つであり、都民・自治体・回収業者が三位一体となって長年に亘り築き上げた『集団回収システム』の非常事態といっても過言ではありません。

当組合は今後とも『集団回収システム』を守るため、製紙メーカーや二次合金メーカー、或いは古紙及びアルミ問屋の組合とも協力し、価格回復のための善後策を講じてまいりたいと考えております。

なにとぞ集団回収団体の皆様には、価格が回復するまでの間、回収業者への適切な助成がなされるよう自治体に対して働きかけて下さるようお願い申し上げます。

都民の皆様には集団回収の窮状をご理解いただき、この非常事態を乗り切るためにご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 21 年 3 月 23 日  
東京都資源回収事業協同組合  
理事長 吉川 太郎

## ＜日資連の要請文＞

各市町村リサイクル事業ご担当者各位 様

### 資源回収事業に業者支援のお願い

#### 1. お願いの主旨

日頃、資源リサイクル事業に対しましてご指導ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

早速ですが、此の度の世界同時恐慌は、再生資源業界にも甚大な被害をもたらしています。

ご承知のように、我が国の再生資源は、国内基幹産業の主原料として再利用され、余剰となった物は中国を中心としたアジア諸国に輸出して需給調整をして参りました。

国内産業の生産は大きく落ち込み、再生資源の使用量も激減し、欧米やアジア諸国の疲弊も顕現しております。

その中でも、中国は、内需拡大策で生産及び消費のGDP 8%維持を図っているようですが、欧米からの安価な資源物の入荷も多く、輸出価格の低迷も当分続きそうです。

集団回収や行政回収の主品目である古紙類は、すでに回収コスト (kg当たり 10～12 円) を大きく割り込んでいて、3 月に入って問屋持ち込み価格は全て 7 円以下となってしまいました。

その上、不採算分の多くは、最前線で働く零細な回収業者が負うかたちとなっています。

このままでは、民間回収業者の経営が困難になり、地域リサイクル機構の貴重な設備や人材も失ってしまうのではと懸念されます。

もし、そのような事態になれば、環境清掃行政に掛かる莫大な負担も加えて、その損失は計り知れないものがあります。

此の度の市況変化は余りにも急激で世界的規模に広がり、かつ厳しい納入制限が続いているため、日本再生資源事業協同組合連合会 (以下、日資連) としても、組合員や協力市民団体に警鐘をならす以外、適切な対策や行動を取ることも出来ませんでした。

古紙問屋の組合である「全国製紙原料商工組合連合会」は、2 月 24 日付けで国内の製紙メーカー各社に、これ以上の古紙価格値下げを断行しないように要望書を提出しました。

しかし回収業界は、すでに昨年末から厳しい経営環境に落ち込んでおります。

日資連は今後とも、関係各界に対し資源価格回復策を図って頂きますよう運動を進めて参りますが、この非常事態を是非ご理解頂いて、早急に業者支援策を講じて下さいますようお願い申し上げます。

#### 2. お願い事項

◎集団回収など行政ご指導のもと民間で実施している資源回収事業に対し、早急に適正な回収経費の助成策をお願い致します。

◎国や関係機関、関係業界に対し、再生資源類のこれ以上の価格下落をくい止めるべく、市民の皆様とともに働きかけをお願い致します。

平成 21 年 3 月 10 日

日本再生資源事業協同組合連合会 (公印略)  
東京都千代田区三崎町 2-21- 1  
東京資源会館 5 階  
TEL 03-3263-9101

## 地域懇談会報告 (要旨)

## 中野区古紙の資源回収の取り組みについて ～行政回収から集団回収への移行後の現状と展望～



日時：平成 21 年 2 月 18 日（水）18：15～19：50

場所：「なかのZERO」学習室

主催：事業対策委員会（協力：中野区リサイクル協同組合）

参加者：55 名（協会関係者・都内自治体リサイクル担当者・マスコミ等）

行政による資源回収を集団回収に移行する取り組みは、地域住民組織の活性化や行政コストの節減等の効果が期待され注目を集めています。ここ中野区では平成 15 年に町会連合会からの発案を受けて、4 年がかりで古紙の行政回収の廃止とその受け皿となる住民と回収事業者による集団回収の体制を整備してきました。ここでは、経緯や成果・今後の課題等を整理するために、区のご担当者をはじめ移行事業に関わった方々のからお話を伺い、意見交換をしました。

### ＜中野区講演－要旨＞（移行までの経緯等については＜別掲資料 1～4＞をご参照ください。）

中野区区民生活部ごみ減量分野資源回収担当係長 伊藤典子様

古紙の行政回収を集団回収へ移行することは、区にとっては、すなわち事業の「廃止」を意味しています。平成 12 年より開始した古紙の行政回収事業を住民の皆さんにお返しするというスタンスでした。町会連合会や回収事業者団体などと協力し、円滑な移行を心がけてきましたが、「なぜ区の仕事を町会がやらなければならないのか？」等の問い合わせや、行政回収と新集団回収の回収日バッティング、行政と町会のどちらに出してもよいという地域住民の誤解など多少の混乱もありました。

また、町会には、集積所地図の配布、資源の後出しや不法投棄、持ち去り業者への対応等新たにご対応いただくなくてはならない面がありました。移行が遅れがちな町会もありましたが、平成 18 年度中に区内全域で完全移行が達成され、改めて町会の皆さんの力を再認識しました。

行政回収を担ってきた収集作業員は当時拡大を進めていたプラスチック製容器包装の回収業務にあたり、回収拠点は減っても回収量は増加。経費も約 1.3 億円が削減できました。一部の持ち去り業者に至っても撤退表明をするなど、好循環も生まれました。町会は新しい集合住宅に対して関係をつくりやすくなり、引っ越したばかりの若い方が町会の存在を意識するようになったりと町会力のアップにつながる副次的な効果も見られました。

課題としては、商店街からできた町会があるなど家庭系と事業系古紙の区別が困難な面がありますが、事業系古紙の自己処理の原則は維持していきます。また回収量が横ばい傾向になってきたので、継続的な PR が必要と考えています。さらに市況暴落によって集団回収の停滞があってはならないと考えており、担当者レベルでは支援対応が必要と考えています。

### ＜コメンテーターを交えた質疑応答＞

コメンテーター：

横倉正志さん（NPO 法人社会資源再生協議会理事長）  
岩窪昭次さん（中野区リサイクル協同組合理事）

■事業系古紙混入防止策として査察やその頻度を知りたい。

→査察ではないが見て回って、あらゆる場面で指導している。

■PTA や子ども会などの団体が減るのではないかと？

→地域で話し合ってもらい、品目や回収頻度によってすみわけをしてもらっている。新規の団体登録も増えている。

■回収事業者への助成金の有無は？

→区からは集団回収団体への報奨金（6 円/kg）だけで業者助成はなし。

→町会は地元組合と回収事業者と契約しており、町会連合会の統一ルールでは、報奨金 6 円/kg のうち 3 円/kg を回収事業者に支払うことになっている。他区の回収事業者には中野ルールを尊重してもらっている。

■回収量増加の要因に抜取行為の減少があるはず。集団回収の抜き取りは窃盗にあたり、受入問屋は故買の罪になる。

→集団回収の方が所轄警察からも対応しやすいといわれている。区条例でも集団回収の持ち去り禁止を明言している。ただ持ち去り行為は多様化悪質化しており、

区も知恵を絞っているところ。

→世間の抜取行為への関心は薄い。住民もわが業界も抜き取り対応のレベルを引き上げる真剣さが必要。

■行政回収から移行した集団回収の荷は分別の精度が悪い面もあるがどうか。

→「古紙の出し方」の案内を全町会に配布する他、HP でも PR している。

■町会の活性化とごみ減量化はどうつながるのかわからない。

→びん缶分の報奨金（6 円/kg）が容り法との兼ね合いで出せないという答申が出された。これを契機に町会は集団回収への意識を益々高めていったと考えている。

■当区でも集団回収への移行を 21 年度から実施予定で準備中。移行に 1 年以上かかっているがどうか。

→行政回収と集団回収の並存は混乱が増え、経費もかかるため短い方がよい。

→町会にも対応の温度差がある。熱心な地元業者がイニシアチブをとってもらうと効果は高い。

→地元業者を信頼し、企画検討段階から相談していただきたい。

■事業系古紙が集団回収に出されがち。事業所への指導が最大のポイントではないか。

→行政が報奨金を出す仕組みに事業者がただ乗りしてはいけない。区は駅周辺等事業系の多い地域には特に注力して指導している。指導を徹底継続していく。

<おわりに>

中野区の新集団回収への移行は、地域コミュニティ力の向上や回収量の確保、抜取行為の抑止、財政節減等多数のメリットが認められます。何よりもリサイクルが、町会・自治会と回収事業者、行政等の協働によって成立するという原点を再確認した思いです。他方、事業系資

源の混入や民々回収ゆえのリサイクルマーケットの影響を被りやすくなることも否めません。行政回収がごみ減量策のセーフティネットとなっていることも無視できない事実でもあります。新集団回収のシステムの課題の克服に向けた継続的改善とさらなる発展を期待したいと思います。

<資料1> 中野区基礎データ (平成 19 年度内)

<ul style="list-style-type: none"> <li>■人口：310,375</li> <li>■世帯数：173,931</li> <li>■町会・自治会数：109</li> <li>■新集団回収枠組み：原則週1回収、集積所は主にびん缶集積所(町会・自治会によって異なる)</li> <li>■ごみ集積所数：約19,000ヶ所</li> <li>■古紙集団回収集積所数：約6,500ヶ所(推定)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■集団回収団体登録数：209</li> <li>■集団回収実施カバー率(実施世帯/区内全世帯)：約90%</li> <li>■報奨金金額：6円/kg</li> <li>■集団回収業者助成：なし</li> <li>■集団回収業者登録数：31</li> <li>■持ち去り禁止条例：有り</li> </ul>
--	---

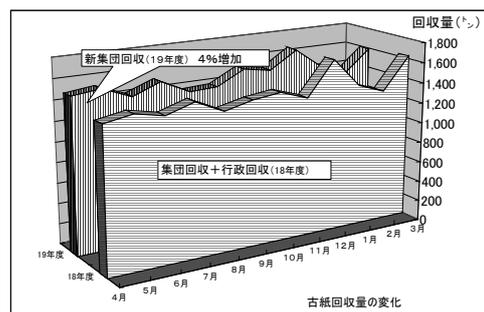
<資料2> 「集団回収から古紙行政回収停止への経緯(抜粋-概略)」中野区資料より

年月	内容
15年9月	町会連合会(資源回収小委員会)より「集団回収の拡充」と「行政回収の停止」について提案 →区は停止要件として集団回収の「回収回数増」「拠点数増」の方策が必要と回答。
16年2月	町会連合会が「原則週1回」「びん缶集積所による新集団回収」の方針決定。
16年3月	町会連合会名で全町会・自治会(109)に対して「新集団回収」を進めるようチラシ配布(若干混乱)
16年6月	「新集団回収」9町会・自治会で開始(16年6月)、28町会自治会で開始(17年4月)45町会・自治会で開始(17年9月)
17年9月	区が4町会地区で古紙行政回収停止モデルを実施
18年2月	集団回収・行政回収の二重構造による問題が増加。町会連合会より18年度中に行政回収停止の要望あり。 →区として方針決定
18年3月	行政回収停止に伴う事業系古紙回収停止に事業者3団体(商店街連合会・東商中野支部・工業産業協会)に通知
18年4月	9町会地域で行政回収停止。回収事業者登録制度要綱改正。 以降地区町会連合会地域単位で徐々に行政回収停止。
19年4月	区内全域で行政回収全廃

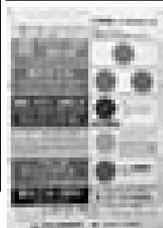
<資料3> 「行政回収停止までの役割分担」中野区資料より作成

	区	町会・自治会	回収業者
2~3ヶ月目	<調査と町会への情報提供> ●地域内の集団回収団体情報 ●事業系古紙の出し方チラシ作成 ●外国語版チラシ作成  ●チラシ・ポスター作成 ●警告シール・誘導シールの作成	<対応と準備> ●行政回収に古紙が出てないか見回りとPR ●集団回収集積所の確認と地図作成 ●共同住宅等への協力依頼 ●チラシを活用し事業系古紙の出し方の徹底 ●地域内の集団回収団体の把握  ●集団回収集積所の地図提出 ●チラシとポスターの内容の確定	
1~2ヶ月前	●地域ニュースとHPの作成	●行政回収停止要望書と確認シートの作成	
停止1週間前	ごみ集積所の資源回収日欄に停止シール貼付	●ポスター・チラシの受け取り ●チラシの全戸配布 ●ポスター掲示 ●回覧板での周知	
停止後		●集団回収日に出されたごみは「警告シール」を貼り、ごみ集積所に移動 ●行政回収日に見回り、出された古紙に「誘導シール」を貼付、後刻回収・保管し、集団回収日に出す ●行政回収日に資源が出ていたら、集積所付近にポスター掲示しPRをする。 ●持ち去り対策パトロール(任意)	●分別不徹底のものに「警告シール」貼付

<資料4> 19年度新集団回収実績



年度	回収方法	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
18年度	集団回収+行政回収	1,408	1,451	1,393	1,480	1,352	1,418	1,451	1,360	1,691	1,404	1,311	1,626	17,345
19年度	集団回収	1,517	1,549	1,435	1,542	1,402	1,415	1,555	1,506	1,677	1,474	1,366	1,590	18,028
増減(Δ=減少)		98	42	62	50	Δ 3	104	146	Δ 14	70	55	Δ 36	683	109
増減率		107%	103%	104%	104%	100%	107%	111%	99%	105%	104%	98%	104%	108%



←ごみ集積所看板：新聞等の欄は「町会や自治会等が行なっている」と記載されている



←集団回収集積場所の旗：オレンジ色で町会・自治会が決めた場所に当日朝に掲げられる

# 海外リサイクル事情視察会（中国－大連・北京）の報告

（社）東リ協会副会長 戸部 昇

3月19日～22日にかけて、調査研究委員会の主催で、15名の参加者を得て中国（大連・北京）のリサイクル事情視察会を行った。日本の再生資源の需給バランスをとるためには中国市場の動向抜きに語れない状況にあり、世界的な経済危機後の中国の状況、今後の見通しは大きな関心時でもある。今回は中国においていち早く事業展開をしてきた(株)松本光春商店（本社、香川県高松市）のご協力をいただき、古紙リサイクルシステム及び資源物の回収仕切屋についての視察を行った。

## ＜松本光春商店－中国進出までの道のり＞

松本光春商店が中国進出のきっかけは、松本寿一会長が約10年前に中国を訪れた時だった。古紙をトラックにバラ積み運搬するのを見て、古紙をベール（プレス梱包）にすることで物流の効率化を図る余地はあると判断したという。しかし早速北京事務所を構えたものの、ベラーの導入は中国では前例がなかったため、加工業としての営業許可を取得するまでに丸2年を要したという。

そもそも中国には日本の古紙問屋のような存在はなかった。仕切屋（建場・よせ屋）は集めた古紙をバラの状態では製紙会社に直接納入していた。そこで遠方の製紙メーカーにバラ積みトラックを送るより、近場の古紙ヤードへ運んだ方が回転率が向上する。ベールなら一度に大量の古紙が運べ、製紙メーカーにとっても備蓄スペースの節約もでき扱いやすい。こうした新しい流通システムの仕組みとメリットを地道に説いて回ったという。

苦節足かけ7年の末、同社は古紙の新しい流通システムのパイオニアとしての地位を築いた。現在同社の受入ヤードは、北京市内で8か所、大連で2か所が稼働している。同社は中国の古紙リサイクルシステムの効率向上に貢献したと、中国政府からの信頼も厚く今後の発展が大いに期待されている。

## ＜古紙ヤード見学（大連・北京）＞

大連空港から、建設ラッシュの大連市内を通過し40分程で松本光春商店の大連第1工場に到着。高松の本社から来ていた同社松本伸幸社長と、村上一樹同社北京事務所代表の歓迎を受けた。

早速最近の市況を聞いてみた。日本と同様、昨年10月以降頗る悪いとのことであった。昨年10月を境に好況時は国内10ヶ所のヤードで月間4～5万トンの古紙を扱っていたが、ここ数か月は2万5千～3万トンまで低迷しているとのこと。

大連第1工場は敷地10,000㎡で従業員数は15～20名。人件費は1人当たり月額で16,000円とのこと、日本の人件費水準の約1/12といったところになるだろう。

03年まで中国にはベラーマシンはなく、同社の設置が中国における第1号であった。現在では北京だけでも50機が設置されている模様。ただ荷動きが悪いことから現在稼働しているのは約7割に当たる38台ぐらいのようだ。

大連から北京まで飛行機で約1時間。松本光春商店現地法人の松本浩志総経理（社長）も合流し、北京市内から約40分で、同社北京通州第2工場に到着。このヤードは中国進出の第4番目の営業所と説明を受ける。見学当日は、ヤード前の道路に30トトレラーが5台ほど待機しており、扱い規模の大きさがうかがえる。6,500㎡のヤード内ではクランプフォークやショベルカーが古紙を休むことなくベラーに供給し活況を呈していた。当日の出荷量は275トンのこと。

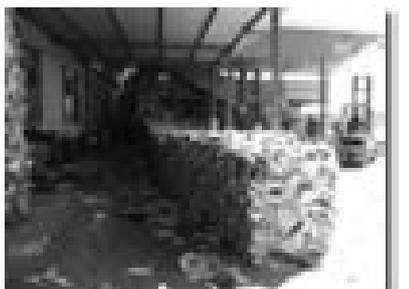
ベールされた古紙は河北省や約500km離れた山東省の製紙メーカーまで運ばれてゆく。輸送代金は距離にもよるが日本円に換算すると3円/kg弱となる。日本では一般的に東京－静岡間で1.6～2.4円/kgと言われているので距離を勘案すると約1/3の運賃コストといえそうだ。その他設備費についても日本の約1/3とのこと。ちなみにヤードでの取引価格は、段ボールの仕入れが8,250～9,000円/トン、メーカーへの販売は11,250円/トン。新聞は仕入れが15,000円/トンで、販売が18,000円/トンとのことであった。



バラ積みで入荷した新聞紙



中国製農業用ショベルを使用



韓国製のベラーで古紙をプレス



大連工場を背景に参加者

## ＜仕切屋－建場・よせ屋－見学（北京通州区）＞



仕切り屋団地の入り口



左に計量用秤がある



回収人の三輪自転車



上質古紙を選別する  
(仕切価格 12.8 円 / kg)



段ボール (仕切価格 9.6 円 / kg)

北京市内には仕切屋が集積する団地がある。屑物扱いの許可を受けた仕切屋に政府が敷地をあてがっているとのこと。この団地には 50～60 軒ほど仕切屋が集まっている。仕切り屋では資源種別に解体・選別が行なわれ、これらはすべて手作業の人海戦術。その光景はさながら日本の 50 年前の建場の風景であった。ちょうど午前 10 時頃だったので、市内で回収した資源を山積みにした回収人のまたがる三輪自転車が続々と入ってきていた。持ち込まれる資源は容器類、鉄屑類、紙類、プラスチック、ウエス、木材等様々で雑多に積み重ねられていった。

こうした規模の団地は北京市内に約 200 か所あり、この他小規模な仕切り屋は 1,000 か所に及ぶとのこと。仕切り価格は日本に比べ比較的高く感じた。地元の人件費や物価からみると価値のある価格と思われる。それぞれの資源価格は写真とともに記載したので参考にいただきたい。

### ■ 中国現地情報

(円換算レート：1 元 = 16 円とした)

### 古紙現場作業員給与

1,000 元 / 月 (16,000 円 / 月)

### ＜建場仕入れ相場＞

土のう袋 (PP)	1 枚	0.1 元 / 枚 (1.6 円 / 枚)
発泡スチロール	1 kg	3 元 / kg (48 円 / kg)
アルミ缶	1 缶	0.1 元 / 缶 (1.6 円 / 缶)
解体木材	1 kg	0.3～0.4 元 / kg (4.8～6.4 円 / kg)
PET ボトル (500ml)	1 本	0.08 元 / 本 (1.28 円 / 本)
びん (リユース)	1 本	0.15 元 / 本 (2.4 円 / 本)
上質古紙 (込頁～色上)	1 kg	0.8 元 / kg (12.8 円 / kg)
新聞・雑誌ミックス		0.9 元 / kg (14.4 円 / kg)
段ボール	1 kg	0.6 元 / kg (9.6 円 / kg)

### ＜問屋＞

新聞買値	1 元 (16 円)
新聞売値	1.2 元 (19.2 円)
問屋負担運賃	(500 km / kg) 0.1～0.15 元 (1.6～2.4 円)



発泡スチロール  
(仕切価格 48 円 / kg)



合板材料にする木片  
(仕切価格 4.8～6.4 円 / kg)



PET ボトルとポリボトル  
(仕切価格 1.28 円 / kg)



砲弾積みしたりターナブルびん  
(仕切価格 2.4 円 / 本)



アルミ缶 (奥)  
(仕切価格 1.6 円 / 本)

## ＜おわりに＞

中国は、森林資源が少ないため古紙消費量・輸入量ともに米国より多い世界第 1 位となっている。世界的な経済危機の打撃は深刻だが、全体規模や森林が少ない同国の事情を考慮すると、古紙の輸入は今後も継続するだろう。ベラー導入による問屋段階での流通効率化は改善傾向にあるが、回収においては昭和 30 年代の日本の光景のようで、運搬も選別も人手に頼る方法となっている。今後国内経済の発展とともに回収体制が整備されることが期待される。



みんなで集めた大切な紙資源は、  
やさしい家庭紙になりました。



## 丸富製紙株式会社

〒417-0847 静岡県富士市比奈678 TEL(0545)38-0103  
営業所 / 東京——名古屋——大阪  
<http://www.marutomi-seishi.co.jp>

丸 富 流 通 株 式 会 社  
丸 富 エ ン ジ ニ ア リ ン グ 株 式 会 社  
丸 富 紙 工 株 式 会 社  
美 藤 製 紙 株 式 会 社  
市 川 製 紙 株 式 会 社  
小 野 製 紙 株 式 会 社

家庭紙と環境を工夫する 丸富製紙グループです

2008年の古紙利用率は61.8%と2010年度62%目標に向けて進んでおり、古紙回収率も75.1%と高率になっております。今後とも古紙の需給安定はもとより資源の有効活用、環境保全のためにも紙リサイクルの促進が必要となりますので、消費者の方々になお一層ご理解・ご協力をお願いします。

当センターでは、紙リサイクルの広報活動の一環として、毎年度全国各地でリサイクル・ペーパー・フェアを開催しておりますが、昨年12月に東京ビッグサイトにおいて開催されたエコプロダクツ2008に出展参加し、連日、児童・生徒を中心にたくさんの方が集まり、3日間で延べ14,500名の来場者を記録しました。



エコプロダクツ2008の会場風景

会場内では、とくに紙すき体験コーナーに人気が集中しました。



財団法人

古紙再生促進センター

〒104-0042 東京都中央区入船3-10-9

TEL 03-3537-6822

FAX 03-3537-6823

ホームページ <http://www.prpc.or.jp>

We♥りさいくる 第15号

発行日：2009年4月27日

発行人：上田雄健

編集人：戸部 昇

発行所：(社) 東京都リサイクル事業協会  
111-0055 東京都台東区三筋2-3-9-701  
TEL:03-5833-1030 FAX:03-5833-1040  
<http://www.purple.dti.ne.jp/torikyokai/>

印刷所：(株) 上野高速印刷